

平成19年3月期 決算概要

(第50期)

1. 決算取締役会開催日 平成19年5月28日

2. 定時株主総会開催日 平成19年6月20日

決算期 年1回3月31日

連結決算の有無 無

中間配当制度 無

会社名	江間忠合板株式会社
本社所在地	東京都中央区晴海3-3-3 http://www.emachu.co.jp http://www.emply.co.jp
責任者役職名	経理部長
氏名	杉本 雅雄
TEL	(03)3533-8231

3. 当期の業績 (平成18年4月1日~平成19年3月31日)

(1) 経営成績 (注)記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

	営業収益	対前期 増減率	営業利益	対前期 増減率	経常利益	対前期 増減率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
今期	5,643	(17.9)	32	(82.2)	48	(78.2)
前期	6,873	(4.9)	182	(6.5)	218	(7.7)

	当期純利益	対前期 増減率	1株当り 当期純利益	自己資本 当期純利益率
	百万円	%	円 銭	%
今期	30	(70.7)	388.87	1.65
前期	104	(---)	1,327.21	5.82

(注) 自己資本当期純利益率は、純資産の部合計の期首と期末の単純平均で除して算出しております。

(2) 配当状況

	1株当り 年間配当金	配当金総額	配当性向	純資産 配当率
	円	百万円	%	%
今期	150	11.7	38.6	0.6
前期	150	11.7	11.3	0.6

(3) 財政状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当り純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
今期	5,260	1,848	35.1	23,688.15
前期	5,235	1,832	35.0	23,483.78

(注) 期末発行済株式数 当期 78,000株

前期 78,000株

(1単元の株式数 100株)

4．商品別売上高

分類	主たる取扱商品	売上 (百万円)			構成比 (%)	
		今期	前期	前期比 (%)	今期	前期
木材	2×4工法用木材、集成材等	2,002	2,464	18.7	36.6	36.9
合板	針葉樹合板、特殊合板等	788	1,413	44.2	14.4	21.2
繊維板	パーティクルボード、MDF、ハードボード	2,303	2,375	3.0	42.2	35.6
その他	建材、住宅設備・機器、建築金物等	371	424	12.5	6.8	6.4
	合計	5,464	6,676	18.2	100.0	100.0

5．営業の経過及び成果

当期における我が国経済は、好調なアジア向け輸出と意欲的な設備投資に牽引され、拡大基調を維持し、戦後最長となる景気拡大を続けました。しかしながら、米国景気、原油価格、社会保険料負担など先行き不透明な要素もあり、個人消費の力強さが欠けるなど、総じて好況感の乏しい景気回復に留まりました。

住宅建築につきましては、都市部のマンションブームを背景に分譲マンションの着工件数が1990年以来の高い水準となった他、持ち家、貸家も堅調に推移し、平成18年度の新設住宅着工戸数は前年度比2.9%増の128万5千戸となり、9年振りの高水準となりました。

このうち、木造住宅は前年度比2.0%増の55万6千戸となりましたが、2×4工法住宅は前年度比8.3%増の10万6千戸と大変好調な伸びとなり、5年連続の増加となりました。一方、マンションは前年度比4.8%増の24万2千戸となり、4年連続の増加となりました。

この様に、当期における我が国の住宅建築は堅調に推移しましたが木材・建材業界におきましては、世界的な木材需要の拡大で国際市場での需給が逼迫するとともに、資源ナショナリズムの台頭、不法伐採の規制等による輸入木材価格の値上がり、海上運賃の上昇、円安等の要因が重なり、木材及び建材の業界は大変厳しい情勢で終始しました。

このような環境の中で、当社は新商品の開発及び新規取引先の開拓に一段と注力すると共に、仕入及び在庫の管理をきめ細かく行い、コスト管理を全社的に強化して、収益力の向上に努めました。

当期の営業収益は56億4千3百万円（前期比17.9%減）、経常利益は4千7百60万円（前期比78.2%減）、当期純利益3千30万円となりました。

次に主要商品別の概況は次の通りであります。

木材

2×4工法用木材については、担当部門の一部を子会社の江間忠ホームコンポーネント(株)に移管集約したことにより、他部門での増加はありましたが、全体の売上は大幅減となりました。

在来工法及び金物工法用木材については、部門を新設し積極的に営業活動を展開した結果、売上は大幅増となりました。集成材用木材については、国内の集成材製品への需要増加により売上は順調に推移しました。最終的に2×4部門の落ち込みが大きく、当部門の売上は前期比18.7%減の20億200万円となりました。

尚、子会社の江間忠ホームコンポーネント(株)の事業として進めております2×4住宅用のプレカット及びパネル生産につきましては、4年目に入った野田工場の稼働率向上が貢献し当期は順調に売上を伸ばしております。

合板

2×4住宅用構造用合板及び遊技機器用の特殊合板はいずれも大幅な売上減となり、当部門の売上は前期比44.2%減の7億8千8百万円となりました。

繊維板

主力商品のシステムキッチンや洗面台ユニット用のメラミン化粧板及びマンション用クローゼット部材等のパーティクルボードに対する需要は引続き堅調に推移したものの、ユーロ高の影響もあり当部門の売上は前期比3.0%減の23億3百万円となりました。利益面では、ユーロ高、素材価格の高騰等コストアップの影響で利益率低下を余儀なくされました。

6. 会社に対処すべき課題

我が国では少子化や団塊の世代の定年が引き金になって、消費構造に大きな変化が生じております。新設住宅着工戸数は、景気回復と団塊及びその第二世代の新規取得・建て替えニーズを背景に、目先堅調を維持するものの、長期的には右肩下がりのトレンドは避けられないものと予想されます。他方、木材・建材業界におきましても、世界的な木材の需給動向、国内の住宅市場の縮小傾向を背景に今後も厳しい状況が続くものと予想されます。

この様な状況の下で、当社は営業活動面では、先述の2×4住宅関係分野において、本社建設事業部門を江間忠ホームコンポーネント㈱に移管集約し営業の強化及び効率化を図りましたが、さらに、当社岸和田工場、江間忠ホームコンポーネント㈱嵐山工場及び野田工場の相互間の連携関係をより一層強化して、2×4ランバーの共同仕入等コスト低減を図りつつ、製販増強を進めてまいります。

又、ボード事業分野では、主力商品のメラミン化粧板（ユニリン社製）をキッチン・マンション収納等のキャビネット、雇用への拡販を引続き強力に推進してまいります。さらに、オフィス家具、事務机用への用途拡大と新たに欧州からのMDFを投入し市場開拓をおこなってまいります。また、欧州からの置き家具製品の販売も併せておこなってまいります。

又、集成材事業分野では、国内の集成材製品需要の増加を背景に、エンジニアリングウッド事業部及び木材建材事業部を主体に、集成材ラミナー及び製品の販売を強力に推進してまいります。ラミナーについては、米加調達力の強みを発揮し米松ラミナーの拡販に努めてまいります。製品については、今年度設備増強した製造子会社江間忠ラムテック㈱の製品を、江間忠グループ内のプレカット工場及び当社の営業部門との連携を強化し拡販してまいります。

又、特建事業分野では、新設した特建部を主体に構造用集成材をベースとした大型木構造の企画、設計、施工を強力に推進してまいります。

更に、環境対応の新規事業として今年度リサイクルオイルを利用した木材の防腐・防虫処理に関する特許権を取得し、テストプラントを設置いたしました。EOS事業室を新設し、プラントの製造販売及び処理製品（商品名：EOSウッド）の販売を本格的に開始してまいります。

経営管理面では、引続きローコスト経営の徹底と高収益体質の強化に全力を尽くす方針ではありますが、これ等の課題や施策を効率よく且つ合理的に推進する為、ITシステムの一段の充実及び経営管理体制の一層の強化を進める所存であります。

7. 役員の変動

当社は第46期より役員制度を刷新し、執行役員制度を導入致しておりますが、全員が1年の任期満了となります。

(1) 新任取締役（6月20日開催の定時株主総会及び取締役会で選任）

代表取締役会長 江間亮三
代表取締役社長 江間哲夫
取締役 中沢征信
取締役 藤野義男
取締役 江間壮一

(2) 新任執行役員（4月1日）

江間哲夫（取締役兼任）
中沢征信（取締役兼専務執行役員）
藤野義男（取締役兼常務執行役員）
石山弘（執行役員）

尚、監査役笛木純夫は退任し、後任として土屋七郎が監査役に就任（6月20日開催の定時株主総会で選任）。

8. 次期営業見通し

第51期（平成20年3月期）の営業計画は次の通りであります。

項目	営業収益	営業利益	経常利益
金額（百万円）	6,249	226	232
当期増減率（％）	+10.7%	+606.3%	+383.3%

以上